

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成24年5月24日(2012.5.24)

【公開番号】特開2011-48421(P2011-48421A)

【公開日】平成23年3月10日(2011.3.10)

【年通号数】公開・登録公報2011-010

【出願番号】特願2009-193855(P2009-193855)

【国際特許分類】

G 06 F 3/041 (2006.01)

G 06 F 3/042 (2006.01)

【F I】

G 06 F 3/041 3 8 0 Q

G 06 F 3/042 J

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月29日(2012.3.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

コンピュータ装置2では、受信手段22が、電子ペン1から記入情報(ストローク情報及びペンID)を受信すると、その記入情報を記憶手段25に記憶し(ステップS201)、処理手段24が、その受信した記入情報が解答用紙4か発表用操作シート5のいずれのものであるかを、図9に示す位置座標情報を参照して判断する(ステップS202)。そして、処理手段24は、電子ペン1からの記入情報が解答用紙4のものであると認識した場合(ステップS202:解答用紙)、受信したペンIDに対応するユーザが解答用紙4に記入したストロークがストローク表示領域601に表示されているか否か、換言すると、受信したペンIDに対応するユーザ別表示ボタン603が選択されているか否かを判定する(ステップS203)。受信したペンIDに対応するユーザのストロークが表示されていると認識した場合(ステップS203:Yes)、処理手段24は、受信した記入情報に含まれるストローク情報に基づいて、電子ペン1で解答用紙4に記入されたストロークを描画して、ストローク表示領域601へ表示する処理を行う(ステップS204)。選択されていないと認識した場合(ステップS203:No)、処理手段24は、処理を終了する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

一方、ステップS202で、処理手段24が、電子ペン1からの記入情報が発表用操作シート5の処理指示エリアのものであると認識した場合(ステップS202:発表用操作シート)、受信したペンIDに対応するユーザのストロークが表示されているか否か、すなわち、受信した記入情報に含まれるペンIDと共に通するペンIDを有して記憶手段25に記憶されている、解答用紙4への記入による記入情報に基づくストロークが表示されているか否かを判定する(ステップS205)。表示されていないと認識した場合(ステップS205:No)、処理手段24は、受信したペンIDの電子ペン1による解答用紙4

への記入内容を表示するように、ストローク表示領域 601 を即時に切り替える処理を行い（ステップ S206）、図 8 に示す処理指示情報を参照して、ステップ S202 で用紙種別と共に認識した処理指示エリアに対応する処理を、受信したペン ID の電子ペン 1 により解答用紙 4 に記入した内容のストローク再生について実行する（ステップ S207）。また、受信したペン ID に対応するユーザのストロークが表示されていると認識した場合（ステップ S205：Yes）、処理手段 24 は、ステップ S202 で認識した処理指示エリアに対応する処理を実行する（ステップ S207）。

#### 【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

そして、処理手段 24 は、記憶手段 25 に記憶された使用関係情報を参照して、受信した記入情報に対応するユーザエリアと用紙種別と使用ユーザとを認識して、その用紙と対になる用紙を特定する。例えば、ユーザ A が発表用操作シート 5 に記入したストロークの記入情報を受信した場合、処理手段 24 は、記入情報より使用ユーザが「ユーザ A」であると認識して、使用関係情報を参照して共通する使用ユーザ「ユーザ A」が関係付けられている解答用紙 4 を特定する。そして、特定した解答用紙 4 に関する記入情報に基づいて、その解答用紙 4 に記入された内容のストロークを、記憶手段 25 に記憶された処理指示情報を参照して、その処理指示エリアに対応する処理を実行しながら、表示手段 26 に表示させる。したがって、ユーザが解答用紙に電子ペン 1 でストロークを形成した後に、発表用操作シート 5 の処理指示エリアに触れると、コンピュータ装置 2 では、その処理指示エリアに対応する動作を再現して、解答用紙 1 に記入されたストロークを、ストローク表示領域 601 に表示することができる。

#### 【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0059】

コンピュータ装置 2 では、受信手段 22 が、電子ペン 1 から記入情報（ストローク情報）を受信すると、その記入情報を記憶手段 25 に記憶し（ステップ S401）、処理手段 24 が、その受信した記入情報から、どの解答用紙 4 かあるいは発表用操作シート 5 かを判断する（ステップ S402）。このとき、各解答用紙 4、発表用操作シート 5 には、異なる座標領域のユニークなドットパターンが割り当てられて印刷されているので、処理手段 24 は、図 14 に示す使用関係情報を参照して、受信した記入情報から、特定の解答用紙 4 または発表用操作シート 5、ユーザエリア、およびその使用ユーザを認識することができる。そして、処理手段 24 は、電子ペン 1 からの記入情報が解答用紙 4 のものであると認識した場合（ステップ S402：解答用紙）、その使用ユーザによって解答用紙 4 に記入されたストロークがストローク表示領域 601 に表示されているか否か、換言すると、記入情報から特定された使用ユーザに対応するユーザ別表示ボタン 603 が選択されているか否かを判定する（ステップ S403）。認識した使用ユーザによって解答用紙 4 に記入されたストロークが表示されていると認識した場合（ステップ S403：Yes）、処理手段 24 は、受信した記入情報に基づいて、電子ペン 1 で解答用紙 4 に記入されたストロークを、ストローク表示領域 601 へ描画して表示する処理を行う（ステップ S404）。選択されていないと認識した場合（ステップ S403：No）、処理手段 24 は、処理を終了する。